

	【誤】	【正】
p.156 図10-16 図タイトル・説明文 (2刷にて修正済)	図10-16 環椎後頭関節後方脱臼の画像診断:Powers ratio 正中矢状断で図のBC, AOの距離を計測し, BC/AOが1未満なら正常, 1以上なら前方脱臼の可能性がある B:basion, O:opision, A:anterior arch of C2, C:posterior arch of C2	図10-16 環椎後頭関節 <b>前方</b> 脱臼の画像診断:Powers ratio 正中矢状断で図のBC, AOの距離を計測し, BC/AOが1未満なら正常, 1以上なら前方脱臼の可能性がある B:basion, O:opision, A:anterior arch of <b>C1</b> , C:posterior arch of <b>C1</b>
p.20 図1-18 Log roll法, 禁忌・その他 (3刷にて修正済)	不安定型骨盤骨折, 腹部外傷合併時 あるいはその疑い時	不安定型骨盤骨折- <b>腹部外傷合併時</b> あるいはその疑い時
p.76 右段13行目 ～15行目 (3刷にて修正済)	しかし前述のように, 大量血胸の合併時など偽陽性となることもあり, 経過中に循環異常を認める場合には繰り返し実施する。	しかし前述のように, 大量血胸の合併時など <b>偽陰性</b> となることもあり, 経過中に循環異常を認める場合には繰り返し実施する。
p.205 右段8行目～13行目 (3刷にて修正済)	奇形発生が起きるとされる胎児の被曝量は最低100Gyとされる。胎児に対する照射は奇形のほかに, 小児期の発癌, 小頭症の可能性がある。胸部X線写真は1回あたり0.1Gy, 骨盤X線写真で母体の受ける線量は約2.5Gy, 子宮内の胎児では0.16Gyとされる <sup>2)</sup> 。一般的な骨盤CTでは胎児は20～50Gyを被曝するため, 妊娠初期には腹部CT検査はできるだけ避け, 超音波検査を優先させるのがよい。	奇形発生が起きるとされる胎児の被曝量は最低100 <b>m</b> Gyとされる。胎児に対する照射は奇形のほかに, 小児期の発癌, 小頭症の可能性がある。胸部X線写真は1回あたり0.1 <b>m</b> Gy, 骨盤X線写真で母体の受ける線量は約2.5 <b>m</b> Gy, 子宮内の胎児では0.16 <b>m</b> Gyとされる <sup>2)</sup> 。一般的な骨盤CTでは胎児は20～50 <b>m</b> Gyを被曝するため, 妊娠初期には腹部CT検査はできるだけ避け, 超音波検査を優先させるのがよい。
p.242左段 「2.超音波検査」 6行目 (3刷にて修正済)	また, 超音波装置を用いることによって, その他にも下大動脈(IVC)の径を評価することにより循環血液量の減少を類推することができる <sup>4)5)</sup> 。	また, 超音波装置を用いることによって, その他にも下大 <b>静</b> 脈(IVC)の径を評価することにより循環血液量の減少を類推することができる <sup>4)5)</sup> 。
p.270 下から5行目 (3刷にて修正済)	大骨盤には腹部臓器や膀胱が入り, 小骨盤には直腸や膣が入る。	大骨盤には腹部臓器 <b>や膀胱</b> が入り, 小骨盤には直腸や膣, <b>膀胱</b> が入る。
p.38右段 11行目 (4刷にて修正済)	N(Neck mobility)	N(Neck <b>mobility</b> )
p.97 右段9行目～12行目 (4刷にて修正済)	初回FASTが陰性でも, 骨盤骨折, 胸腰椎損傷, 胸部外傷(肺挫傷, 下位肋骨骨折など), 血尿を認める場合は潜在する臓器損傷の可能性があり, FASTを繰り返す。	初回FASTが陰性でも, 骨盤骨折, 胸腰椎損傷, 胸部外傷(肺挫傷, 下位肋骨骨折など), 血尿を認める場合は潜在する臓器損傷の可能性があり, <b>FASTを繰り返し, 循環動態が安定していればCT検査を行う。</b>
p.156 図10-16 図説明文 (4刷にて修正済)	B:basion, O:opision, A:anterior arch of C1, C:posterior arch of C1	B:basion, O: <b>opisthion</b> , A:anterior arch of C1, C:posterior arch of C1
p.158右段 「1)正確な所見が取れる場合」 3行目～4行目 (4刷にて修正済)	画像診断で異常がない場合や, 重篤な受傷機転がない場合は, 以下の手順で頸椎カラーを除去する。	<b>自・他覚所見または神経学的所見で異常を認めない場合</b> や, 重篤な受傷機転がない場合は, 以下の手順で頸椎カラーを除去する。
p.229 図16-6 図最下段の矢印下の説明 (4刷にて修正済)	“A” or “V” or “P(inappropriate)”	“A” or “V” or “P( <b>appropriate</b> )”
p.229 図16-6 図説明文 (4刷にて修正済)	合目的な動き(P-inappropriate)と不合目的な動き(appropriate)の2つに分類される	<b>非合目的な動き(P-inappropriate)と合目的な動き(appropriate)</b> の2つに分類される